



濱田 静岐社長



渡邊 千晴工場長

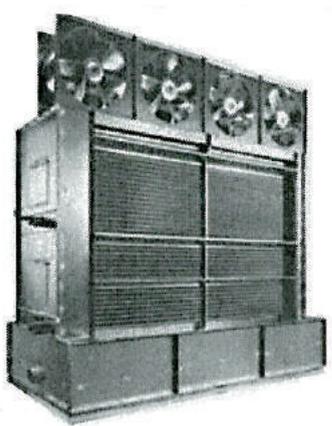


宮嶋 浩司部長

マキシス
業 15年見通しは後半上昇へ

全体最適、技術標準化を

2015九州地区春季冷熱特集



床置型差圧式急速凍結用モデルのユニットクーラー

復興案件などが現在も続いている大型冷蔵庫関連の再編及び伸びに対して発生する低温倉庫や物流センター。また補助金などの助成が絡む自然冷媒系の案件への刈取りに注力するとし、全般的な見通しでは前半低く、後半高いといったイメージであるとした。

一方、生産側における効率改善について同社取締役、渡邊千晴工場長は

「併せて技術開発面については近年、同社が注力しているSUS管クーラーの動きについて、徐々にではあるがアルミからの置換などもあり、採用が増加している」とし、腐食や衛生面上の高付加価値が背景にあるとした。

但し、価格面に対する企

水産系需要に明るく、デルへはヒッツァーのCO₂コンプレッサが搭載代表される低温機器で存在感を示す柴田溶接工作所（社長＝柴田勝紀氏、本社・福岡県福岡市南区塩原3-1-16）が先頃2月に開催されたスーパーマーケット・トレードショー2015において協業先でもあるドイツのグローバルコンプレッサメーカーであるBITZ ERの日本法人、ピッツァー・ジャパン（社長＝シユパナン・フェルディナンド氏、本社・大阪府豊中市）のブースにおいてコンビニエンス・ストア向け（以下「コンビニエ」）の「低GWPコンプレッサユニット（自然冷媒・R744使用）を初めて披露した。勿論、同

CO₂ユニット 本 格 披露目

柴田溶接工作所

スーパー向け 4月より2機種上市



CO₂ユニット展示と柴田勝紀社長＝スーパーマーケットトレードショー

で知見を高めた柴田勝紀社長が約2年の歳月を掛けて自社製品として、各種コンポーネントを集結の設備工事業者が自ら提案しうる製品として採用を伸ばしていきたい」と2種をラインナップ。30

この開発は大手冷熱エンジニアリングメーカー・CAREL Japanによる各種制御ノウハウを踏襲した逸品となった。現在、大手低温機器メーカーに

「中温と低温の二温帯が取り出せる。中温域での冷却能力は20kW、低温域では4kWの能力を示し、このユニット1台で膜部及び冷凍機へはクロール市場で、より信頼性の高いヒッツァーを初めてとする各種メーカー製品を組み込み、制御部分はCAREL社の省エネ制御がインストールされる。さらにデマンド制御コントローラーや蒸発圧力調整弁、ホットガスバイパス弁や大型のCO₂電子膨張弁などが新リリースされ、これにより同社のCO₂ユニットではフラッシュガスを組み込むことが可能となった。

HPの中温は20kW、低温は10kW。同じく45HPの中温は30kW、低温は15kWとなる。

このCO₂コンデンシングユニットの基本構成はコンプレッサなどの心臓部及び冷凍機へはクロール市場で、より信頼性の高いヒッツァーを初めてとする各種メーカー製品を組み込み、制御部分はCAREL社の省エネ制御がインストールされる。さらにデマンド制御コントローラーや蒸発圧力調整弁、ホットガスバイパス弁や大型のCO₂電子膨張弁などが新リリースされ、これにより同社のCO₂ユニットではフラッシュガスを組み込むことが可能となった。

の負荷も大きく消化に時間がかかった場面もあったが、今期からは効果が表れるものとみている。

従来の当社では一品一様という考え方が強かったが、これらの設計をいかに簡易にこなしていくかをテーマに本来の効率へ向け標準化を進めていく」とし、全体最適を目指すものとした。

重ねて個別受注であるため、基本的には先行生産が出来ず、需要の重なる集中時のリスク分散についても、さらに検討を加えていく。例えば、シースピークとなる期末では受注分については、ある程度先行生産を掛けるものとしてムラの解消を図っていく。特に助成金関係（CO₂）では取引先との協業においても大別したバリエーションラインで取り組むものとした。